

市民の力で 成功させよう 海づくり大会



平成22年6月に開催される「第30回全国豊かな海づくり大会」に向けて、わかさ・プラザで第2回関市推進協議会総会が開催され、市内135団体から選出された関市推進協議会の委員約200人が出席

しました。総会では、大会啓発ビデオの上映や大会に関する専門部会の設置と部会委員の選任の報告のあと、大会役員の委嘱や平成21年度事業計画案と予算案の審議が行われました。

あんな事、こんな事



厄を払って福はうち

2月3日の節分の日、新長谷寺(吉田観音)で恒例の節分会が行われ、今年厄年にあたる男女約800人が本堂で厄払いの祈とうを受けたあと、自分の歳の数だけ豆やお菓子などを本堂からまいて無病息災を祈願しました。境内で待ち構えるたくさんの人たちは「福はーうち」の掛け声とともに飛んでくる豆やお菓子をつかもうと必死に手を伸ばしていました。

森から始まる海づくり

「第30回全国豊かな海づくり大会」の開催を記念して、豊かな森林づくりについて考える「関市森林づくりシンポジウム」が関市文化会館で開催され、市民や各団体の関係者ら約200人が参加しました。基調講演やパネルディスカッションで、森林づくりの重要性や海のない岐阜県関市で大会を開催する意義、行政や市民の取り組みについて熱い議論が交わされました。





やったー! とったー!

富野小学校で恒例の手作りジャンボかるた大会が行われ、全校児童90人が校庭を駆け回りました。句が読み上げられ、笛の合図で一斉に児童は目当てのかるたに向かって一目散。見事にとると全身で喜びを表現していました。このジャンボかるたは20年以上前に当時の児童が作成し、現在も傷ついた箇所を補修しながら大切に使っています。

ラグビー東海大会で準優勝

2月1日に名古屋市の瑞穂ラグビー場で開催された「サントリーカップ第5回全国小学生ラグビー選手権大会東海ブロック予選」で、岐阜県代表として出場した桜ヶ丘小学校6年生選抜の「俊足桜」チームが準優勝を果たし、キャプテンの平田裕也君と副キャプテンの福山祥太君らが岐阜県代表として初の快挙を報告に市長のもとに訪れました。



おいしいシイタケを栽培しよう

下之保の「しあわせの気の森」で、武儀東小学校と武儀西小学校の3年生児童24人を対象にシイタケ栽培教室が開催されました。シイタケの栽培方法を聞き、シイタケ狩りを体験したあと、児童らは実際に原木にシイタケ菌を打ち込みました。菌を打った原木は、学校内の風通しのよい日陰に置かれ、収穫の日まで待ちます。

“ミナモ”と真剣勝負!?

平成24年開催予定の「ぎふ清流国体(第67回国民体育大会)」のマスコットキャラクター「ミナモ」が大会開催のPRのために倉知小学校を訪れ、同校3~4年生130人の児童が迎えました。ミナモと児童はじゃんけんゲームをして遊び、来校のお礼に児童はクラスごとに分かれて大縄跳び(8の字跳び)を披露し、楽しい時間を過ごしました。



こぼれ話



2月15日、中池体育館において「第6回岐阜県玉入れ大会」がせきスポーツクラブの主催で開催されました。毎年多くのチームが優勝目指して参加しており、今年は28チーム154人がエントリーしました。私の職場の先輩も毎年参加しています。(ちなみに今年は3位に入賞しました!) 参加者の中には最高齢の79歳の元気な方や、外国人の若者の姿も見られました。募集を知り、妻が「仲間を集めて参加しようかな」と言い出し、

保育園の保護者役員などのメンバーでチームを編成し2チームが参加しました。「たかが玉入れ、されど玉入れ。練習したほうがいいぞ」と話しましたが、日ごろから忙しいお母さんチームなので都合がつかず、ぶっつけ本番となりました。結果は予想通り…。優勝したのは「チームわかば」で、応援団とともに抜群の団結力とチームワークが見事でした。ちなみにしゃがんで拾い、立って放るといったこの玉入れの動作は結構きついらしく、もれなく妻も筋肉痛になってしまいました。